

画：早川 和子

# 有明海の恵みと縄文文化

—有明海と人との関わり・その始まりと展開—

## シンポジウム —東名シンポジウム2018—

先着 100名・入場無料

日時 2018 10/6 (土)

(開場) 12:30 ~ (開演) 13:00 ~

場所 佐賀市立図書館  
多目的ホール  
(佐賀市天神三丁目 2-15)

- ①有明海と人との関わり・その始まりと展開  
西田 巖 / 佐賀市教育委員会
- ②有明海における縄文人の海産資源利用—貝類—  
黒住 耐二 / 千葉県立中央博物館
- ③有明海における縄文人の海産資源利用—魚類—  
丸山 真史 / 東海大学海洋学部
- ④有明海の海生生物と環境  
伊藤 辰徳 / 佐賀県立宇宙科学館
- ⑤まとめ —ディスカッション—  
講演者 4名



## 企画展

◆東名遺跡を中心に、佐賀平野における弥生~古墳時代の遺跡の展開も紹介!!

—3会場でリレー展示—

10/4(木) - 10/21(日)  
佐賀市立図書館 入館無料

10/25(木) - 11/25(日)  
東名縄文館 入館無料

11/29(木) - 1/27(日)  
吉野ヶ里遺跡展示室 入館料が必要

【共催】佐賀県立博物館

## 講演会 —縄文貝塚を知る—

日時 2018.12.8 (土) 13:00 ~ 16:00 (受付 12:30 ~)

場所 佐賀市立図書館 / 多目的ホール 先着 100名・入場無料

- ◆特別史跡 加曾利貝塚 (千葉県) 西野 雅人 / 千葉県埋蔵文化財センター
- ◆史跡 彦崎貝塚 (岡山県) 田嶋 正寛 / 岡山市教育委員会

【主催】佐賀市教育委員会

【問い合わせ】佐賀市教育委員会 文化振興課  
TEL 0952-40-7368 FAX 0952-26-7378  
bunkashinko@city.saga.lg.jp

# 有明海の恵みと縄文文化

—有明海と人との関わり。その始まりと展開—

## 開催趣旨

国内最古の湿地性貝塚である東名遺跡では、通常の遺跡では残らない動植物性遺物が多量に出土しました。しかもその多くが国内最古級の大変貴重なものです。日本文化の起源を知る上でも大変重要な資料で、日本を代表する縄文時代の遺跡です。平成28年10月、その重要性が認められ国史跡に指定されました。このイベントは、史跡東名遺跡の保存活用の一環として開催するものです。今回は、東名遺跡の成立と関係の深い有明海をテーマに、企画展・シンポジウム・講演会を企画しました。

## 企画展

東名遺跡には、様々な動物性遺物（骨や貝）が残されており、縄文人たちの食生活の様子が良くわかります。中には、現在の有明海には生息していない魚類が確認されており、縄文人の豊かな食文化だけではなく、今とは違った有明海の姿がみえてきました。東名遺跡の後、干潟が乾いて陸化し、平野が広がっていきます。それとともに、時代を追って有明海側へ遺跡が展開していきます。その様相は佐賀平野特有で、有明海を介した海上交易の存在をうかがい知ることができます。今回は東名遺跡を中心に、有明海と人との関わりが始まる縄文時代から、海上交易の要衝となる弥生・古墳時代の遺跡について紹介します。

### ◆佐賀市立図書館 中央ギャラリー

(火～土曜 10時～19時、日・祝日 10時～17時)

### ◆東名縄文館<佐賀市金立町千布・巨勢川調整池内>

10時～16時(月曜休館・祝日の場合翌日)

### ◆吉野ヶ里遺跡展示室<佐賀県神埼郡吉野ヶ里町田手>

9時～17時(12/31・1/21・1/22 休園)

## シンポジウム

東名遺跡の最新の研究成果からみえてきた縄文人の海産資源利用と、現在の有明海との違いなどについて4人の研究者が紹介します。また、有明海と関連づけた活用の方向性を模索します。

13:00 開催挨拶

13:05 有明海と人との関わり・その始まりと展開 (西田 巖)

13:40 有明海における縄文人の海産資源利用—貝類—(黒住 耐二)

14:30 有明海における縄文人の海産資源利用—魚類—(丸山 真史)

15:10 休憩

15:20 有明海の海生生物と環境 (伊藤 辰徳)

16:00 まとめ —ディスカッション—(講演者)

16:40 終了

## 講演会

児島湾(瀬戸内海)と東京湾の縄文貝塚について紹介します。

いずれも縄文時代を代表する貝塚で、有明海の縄文貝塚との違いや、史跡整備、活用事業の状況などについても紹介します。

### ◆特別史跡 加曽利貝塚<千葉県> (西野 雅人)

### ◆史跡 彦崎貝塚<岡山県> (田嶋 正憲)

【問い合わせ】佐賀市教育委員会 文化振興課

TEL 0952-40-7368 FAX 0952-26-7378

(メール) bunkashinko@city.saga.lg.jp



東名遺跡第2貝塚貝層断面

◆東名遺跡では耳石(じせき)の調査によって、体長1m超のホンニベと、側肋骨(そくしこつ)の同定でトウカイハマギギを獲得していたことが判明した。いずれも現在の有明海には生息していない魚で、東シナ海や黄海に多い種である。

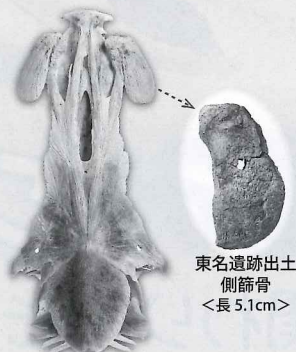
### ホンニベの耳石



長 25.0mm

◆耳石…魚の頭骨の中にある平衡感覚や聴覚に関連した器官。

### トウカイハマギギ



東名遺跡出土  
側肋骨  
<長 5.1cm>

神経頭蓋の現生標本

### 東名縄文人が好んだ貝類



ヤマトジミ

ハイガイ

アゲマキ

長 35cm

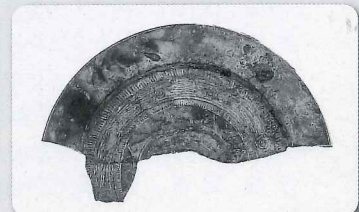
カキ  
(スミノエガキ)



▲牟田寄遺跡出土土器 / 弥生時代後期(左)・古墳時代前期(右)



写真:伊藤辰徳



▲柴尾橋下流遺跡出土中国鏡(弥生時代)  
◀ツクシガモの群れ(現代)

